

[036]言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1655037>

出版情報：言語文化論究. 36, 2016-03-18. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

個人研究業績一覧

(2014年11月～2015年10月)

言語環境学部門

言語教育学講座

Andreas Kasjan

【その他】

- 「多言語による Web 教材の開発」全国語学教育学会，第40回年次国際大会，つくば国際会場，2014年11月22日。（口頭発表）
- „Zur Entwicklung eines Web-basierten Lernsystems für zweite Fremdsprachen“，日本独文学会西日本支部，第66回研究発表会，宮崎市宮日会館，2014年11月29日。（口頭発表）
- „Things to be achieved — achievable things“，JALT-OLE, The 4th Annual OLE SIG, Chûkyô University, 2015年10月24日。（口頭発表）

志水 俊広

【その他】

- Team teaching: The role of JTEs and the role of ALTs, 平成26年度JETプログラム外国語指導助手の指導力等向上研修，ホテルグランデはがくれ，2014年11月11日（講演）
- 「多様な大学環境における英語 e ラーニング — 学習データ，アンケート，インタビューからみる『理想的』学習者 —」外国語教育メディア学会第55回全国研究大会，千里ライフサイエンスセンター，2015年8月5日（青木信之他5名とのシンポジウム）
- Intercultural Communicative Competence and Study Abroad, The JACET (Japan Association of College English Teachers) 54th (2015) International Convention, 鹿児島大学，2015年8月29日（Celeste Kinginger, 古村由美子, 柿元悦子とのシンポジウム）

高橋 勤

【論文】

- 「根をもつということ — ソローの文化論」『ヘンリー・ソロー研究論集』（日本ソロー学会）41号，2015年，pp. 11-20.

【その他】

- Yoshio Takanashi. *Emerson and Neo-Confucianism: Crossing Paths Over the Pacific*. 『ヘンリー・ソロー研究論集』（日本ソロー学会）41号，pp. 68-71. （英文書評）
- 「コハセット海岸を歩く」『命の泉を求めて — 日本ソロー学会50年の歩み』日本ソロー学会編，金星堂，2015年，pp. 52-53. （エッセイ）
- “Beyond Duality: Thoreau’s Redefinition of Self-Culture.” International Symposium on Literature and Environment in East Asia. Meio University. November 22, 2014. （口頭発表）
- 「背後の自然 — 『ウォールデン』再読」九英会（九州大学文学部），2015年2月21日。（招

待講演)

辻野 裕紀

【論文】

- 「現代朝鮮語における言語規範と認識度 — いわゆる〈saisios〉を対象に — 」, 『韓国朝鮮文化研究』14, 東京: 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室, pp. 39-63, 2015年3月.
- 「中期朝鮮語複合語アクセント試論」, 『言語科学』50, 福岡: 九州大学大学院言語文化研究院言語研究会, pp. 39-46, 2015年3月.

【その他】

- 「現代朝鮮語における言語規範と認識度 — いわゆる〈saisios〉を対象に — 」, 西南言語対照研究会, 西南学院大学 (福岡), 2014年12月13日. (口頭発表)
- 「中央アジア高麗語の話しことばと書きことば」(権在一著), 『朝鮮学報』234, 天理: 朝鮮学会, pp.1-36, 2015年1月. (翻訳)
- 「現代朝鮮語の漢字語〈流音後濃音化〉浅析」, 第2回中・日・韓比較文化研究国際学術研討会, 瀋陽航空航天大学 (中国・瀋陽), 2015年10月18日. (口頭発表)

土屋 智行

【論文】

- 「発話・慣習・社会知に基づいた『まとまり』の認知 — 『NをV』の定型性の分析と比較 — 」『認知言語学論考』第12巻, pp. 379-415. 2015年3月. (単著)
- 「一日の会話行動に関する調査とその準備的分析 — 均衡会話コーパス設計に向けて — 」『言語処理学会第21回年次大会発表論文集』(言語処理学会), pp.143-146. 2015年3月. (共著)
- 「均衡会話コーパス設計のための一日の会話行動に関する調査 — 中間報告 — 」『第7回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』(国立国語研究所), pp. 27-34, 2015年3月. (共著)

松村 瑞子

【論文】

- 「日本人の感謝表明とポライトネス」, 『東アジア日本語・日本文化研究 新機軸の日本語・日本文化研究』第17集特別号, 東アジア日本語・日本文化研究会, pp. 83-94, 2015年3月.

【その他】

- 「日本人の言語行動におけるポライトネス — 異文化理解教育の方法開発に向けて — 」, 第16回東アジア日本語・日本文化フォーラム, 韓国仁川大学校, 2015年3月27日. (特別講演)
- 『平成26年度日本語資料集』, 松村瑞子・王丹丹 (編), 九州大学大学院比較社会文化学府, 2015年3月.
- 「日本語のポライトネス」九州大学大学院言語文化研究院2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年10月17日.

保田 幸子

【論文】

- Yasuda, S. (2015). Exploring changes in FL writers' meaning-making choices in summary writing: A systemic functional approach. *Journal of Second Language Writing*, 27, pp. 105-121.
- Yasuda, S. (2015). An overview of the university English curriculum: A conceptual framework for curriculum innovation. *Bulletin of KIKAN Education*, 1, pp. 102-117.
- Yasuda, S. (2014). EFL writing in Japanese instructional contexts: Present perspectives and future directives. *Asian EFL Journal*, 24, pp. 155-202
- 保田幸子, 大井恭子, 板津木綿子 (2014). 日本の高等教育における英語ライティング指導の実態調査 (Issues in teaching and learning EFL writing in higher education in Japan). *JABAET Journal*, 18, pp. 51-71.

【その他】

- Yasuda, S., & Oi, K. (2015). EFL writing instruction in East Asia: Policy, practice, and future directions. The 2nd International Symposium, EFL Writing in East Asia: Crossing the Borders. University of Tokyo. October 31, 2015. (oral presentation)
- Yasuda, S. (2015). Systemic Functional approaches to second language acquisition: Toward a reconceptualization of written language development. Japan Association of Systemic Functional Linguistics (JASFL) (日本機能言語学会). Tamagawa University, Tokyo. October 11, 2015. (oral presentation)
- Yasuda, S. (2015). Issues and challenges in teaching and learning EFL writing: A cross — national survey. American Association of Applied Linguistics (AAAL), Toronto, Canada, March 22, 2015. (oral presentation)
- 保田幸子 (2015). 「日本, 台湾, 韓国, 香港における英語ライティング教育実態調査」千葉大学英語教育学会 (大井恭子先生退職記念シンポジウム), 千葉大学, 2015年3月15日. (口頭発表).

言語情報学講座

内田 諭

【著書】

- 『フレーム意味論に基づいた対照の接続語の意味記述』, 九州大学大学院言語文化研究院, FLC 叢書 X, 花書院, 全249頁, 2015年3月. (単著)

【論文】

- 「接続詞は何を結ぶか—— フレーム意味論に基づいた対応分析」岸江信介・田畑智司 (編) 『テキストマイニングによる言語研究』(ひつじ書房), pp. 115-136, 2014年12月.
- 「クラスター分析とフレーム分析による語彙のジャンル別特徴——『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院)第34号, pp. 21-34, 2015年3月. (藤井聖子氏と共著)
- 「基本動詞のコロケーション難易度測定—— CEFR レベルに基づくテキストコーパスからのアプローチ」『言語処理学会第21回年次大会発表論文集』(言語処理学会), pp. 880-883, 2015年3月.
- 「CEFR レベルに基づいた教材コーパス—— レベル別基準特性の抽出に向けて」『英語コー

パス研究』(英語コーパス学会) 第22号, pp. 87-99, 2015年3月.

【その他】

- 『1フレーズで2コ覚える TOEIC テスト英単語ワードコネクト』旺文社, 2015年5月. (監修)
- 『1フレーズで2コ覚える TOEFL テスト英単語ワードコネクト』旺文社, 2015年5月. (監修)
- 『明解言語学辞典』, 三省堂, 2015年8月. (斎藤純男, 田口善久, 西村義樹(編), 分担執筆)

江口 巧

【論文】

- 「学生の英語ライティングに見るアスペクト」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第65集, pp. 31-46, 2015年3月.

【その他】

- 「英語の情報構造——重要な情報はどこに現れるか？」九州大学大学院言語文化研究院2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年11月14日.

大津 隆広

【その他】

- “From Justification to Modulation: Procedural Constraint of *After All* and *Datte*,” 14th International Pragmatics Conference, University of Antwerp, 2015年7月28日. (口頭発表) (Program & Abstracts <http://ipra.ua.ac.be/main.aspx?c=.CONFERENCE14&n=1476>)
- 「調整と手続き的制約——関連性理論からみた *after all* と「だって」」『日本英文学会第87回大会 Proceedings/九州支部第67回大会 Proceedings』, pp. 304-305, 2015年9月.

鈴木 右文

【論文】

- 「教養映画科目における評論課題に適する作品——『ピフォア・ザ・レイン』——」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第34号, pp.77-88頁, 2015年3月.
- 「授業時間を廃した英語科目における学習行動」『英語英文学論叢』第65集, pp. 47-58, 2015年3月.
- 「授業時間のない科目向け英語ウェブ教材デザインを試み——九州大学新CALL科目と新教材——」『言語科学』第50号, pp.1-21, 2015年3月.

【その他】

- 「ケンブリッジ大学を舞台に含めた天文教育」日本天文学会, 2015年春季年会, 大阪大学, 2015年3月19日. (ポスター発表+講演) (発表者: 鈴木右文, 藤原智子, 花田俊也, 山岡均)
- 「口笛彼方」「我が青春に悔いなし」「美味しんぼ」「我が命つきるとも」「かぐや姫の物語」「博士と彼女のセオリー」「招かれざる客」「ル・アーヴルの靴みがき」「日本と原発」「ネパールの首飾り」「NO!」「ミニヴァー夫人」『反戦情報』No.362-373, 2014年11月15日~2015年10月15日. (連載コラム)
- 「イギリスの歴史」「英国における異文化」「ビジネスに関係した英語表現」シリーズ合計15本『BBIQ モーニングビジネススクール』(FM 福岡), 2014年12月10日~2015年10月15日. (ラジオ出演)
- 『大名セントラルパーク』(コミュニティラジオてんじん), 2015年6月21日. (ラジオ出演)

- 「英語の音声 — 発音やリズムの技法」九州大学大学院言語文化研究院2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年10月10日.

田中 俊也

【論文】

- “Remarks on Two Morphophonological Differences Between Strong and Preterite-Present Verbs in Germanic.” 『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第65集, pp. 17-29. 2105年3月20日.

【その他】

- 「低年次学生の英語語彙力増強の取組み：九大低年次学部生が習得必須の英語語彙力ハンドブックの作成」九州大学 平成26年度第3回全学FD, 教育の質向上プログラム (Enhanced Education Program: EEP) 成果発表会, 九州大学箱崎キャンパス国際ホール, 2014年12月1日. (口頭発表)
- “The Laryngeal Theory and the Narten Hypothesis: Towards an Explanation of Some Morphophonological Characteristics of the Germanic Strong Verbs.” The Language Variation and Change Research Forum 2015, 福岡大学, 2015年5月30日. (口頭発表)
- 「現代英語を歴史的にさかのぼる — 歴史・比較言語学の試み」九州大学大学院言語文化研究院2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年10月31日.

西山 猛

【論文】

- 「唐宋小説称呼方式的歴史演変化敦煌変」『言語科学』第50号, 九州大学大学院言語文化研究院, 21-24頁, 2015年3月
- 「中国である時期行われていた別れの挨拶」(査読付)『九州中国学会報』第53巻, 119-124頁, 2015年5月

【その他】

- 「漢文と中国語は違うものか？」九州大学大学院言語文化研究院2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年11月7日.

山村 ひろみ

【著書】

- 『スペイン語学概論』高垣敏博(監修), 二宮哲(編集), 菊田和佳子(編集), 西村君代(編集), 全293頁, くろしお出版, 第5章「時制とアスペクト」分担執筆, 2015年6月. (共著)

【論文】

- 「state 類事態の時間 構造」再考 — 英語 “know”, 日本語 「知る」, スペイン語 “saber” の対照研究 — (上) 『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第34号, pp. 53-66, 2015年3月. (単著)

【その他】

- “Reconsideración sobre la función del pretérito perfecto simple en español — con especial atención a las oraciones imposibles o casi imposibles de expresarse en el pretérito perfecto simple —”, XXVII Congreso de la Confederación Académica Nipona, Española y

Latinoamericana (CANELA), 南山大学, 2015年5月16日 (口頭発表)

- 「再考：点過去による表出の条件——出来事認識・メトニミー・メタファー——」, 日本スペイン語学セミナー (SELE2015), ヤマハリゾートつま恋, 2015年8月27日 (口頭発表)
- 「スペイン語のしくみ——スペイン語と日本語を比べてみよう」九州大学大学院言語文化研究院 2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年10月24日.

横森 大輔

【論文】

- 「日本人英語学習者による定型表現の使用と習得：言いよどみとクロージングのケース」, 『日本英語教育学会第44回年次研究集会論文集』, pp. 9-16. 2015年3月. (共著)

【その他】

- 「相互行為の資源としての「けど」中断節構文」, 日本語用論学会第17回大会ワークショップ「中断節の語用論と類型論」, 京都ノートルダム女子大学, 2014年11月29日. (口頭発表)
- 「大学英語授業でのスピーキング活動における“非話し手”の振る舞いと参加の組織化」, 「参与（関与）枠組みの不均衡を考える」ラウンドテーブル, 愛知大学, 2015年2月21日. (口頭発表)
- Registering a chunk of information with a stance: A study of *Ne*-marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction, Symposium on Units in Responsive turns, University of Turku. 2015年3月8日. (口頭発表)
- 「均衡会話コーパス設計のための一日の会話行動に関する調査——中間報告——」, 第7回コーパス日本語学ワークショップ, 2015年3月10日. (口頭発表)
- 「確認要求に用いられる認識的スタンス標識としての「なに」について」, 社会言語科学会第35回大会, 東京女子大学, 2015年3月15日. (口頭発表)
- 「一日の会話行動に関する調査とその準備的分析——均衡会話コーパス設計に向けて——」, 言語処理学会第21回年次大会, 京都大学吉田キャンパス, 2015年3月17日. (ポスター発表)
- 「傾かない聞き手・目を合わせない聞き手・硬直する聞き手——英語授業内スピーキング活動にみる「聞き方」の諸相——」, ワークショップ「リスナーシップとその役割の諸相をめぐって」, 岡山大学, 2015年3月21日. (口頭発表)
- Displaying 'thinking-in-progress': The case of *nandaroo* in Japanese talk-in-interaction, The 14th International Pragmatics Conference, University of Antwerp, 2015年7月30日. (口頭発表)
- 「定型表現研究概観——Wray (2013) を基に——」, 第11回話しことばの言語学ワークショップ, 慶應義塾大学, 2015年8月22日. (口頭発表)
- 「日本語日常会話におけるターン途中での発話の重なり」, 社会言語科学会第36回大会, 京都教育大学, 2015年9月6日. (口頭発表)
- 「外国語としての英語スピーキング活動におけるメタ認知と聞き手の参与」, 日本認知科学会第32回大会, 千葉大学, 2015年9月18日. (口頭発表)
- 「言葉を使って事をなす方法——日常会話に見る文法の働き——」, 九州大学2015年度公開講座『ことばの諸相』第1回講義, 2015年10月3日.
- 「言葉を使って事をなす方法——日常会話に見る文法の働き」九州大学大学院言語文化研究院 2015年度公開講座『ことばの諸相』, 九州大学伊都キャンパス, 2015年10月3日.

国際文化共生学部門

国際文化学講座

阿尾 安泰

【その他】

- “Les recherches épistémologiques et la théâtralité”, 14th International Congress for Eighteenth-Century Studies, Rotterdam, Netherlands, 2015年7月30日（国際学会口頭発表）

阿部 俊大

【論文】

- “The ecclesiastical policy of the counts of Barcelona in a conquered region: the relationship between the counts and the archbishopric of Terragona in the 12th and 13th centuries”, F. Sabaté (ed.) *Life and Religion in the Middle Ages*, Cambridge, 2015, pp. 67-102.

【その他】

- El Carácter de Kyushu en Japón: presentación de la región (日本における九州の個性：地域的特徴の紹介). Jornada de Estudios de Asia Oriental: Japón en el punto de mira (「東アジア学術研究会——日本の事例を中心に——」) Universitat Autònoma de Barcelona, Barcelona, Spain, March 6, 2015. (oral presentation)
- La política de Honorio III (1216-1227) y Gregorio IX (1227-1241) en la Corona de Aragón (アラゴン連合王国における教皇ホノリウス3世(1216-1227)とグレゴリウス9世(1227-1241)の政策). IV Simposio Internacional de Estudios Medievales (第4回国際中世学シンポジウム) Universidad Gabriel Mistral, Santiago, Chile, October 28, 2015. (oral presentation)

秋吉 収

【論文】

- 「“雑文家” 魯迅的誕生」『韓中言語文化研究』（韓国中国言語文化研究会）第36輯，pp. 197-214，2014年11月。（単著）
- 「論中国現代詩人郭沫若1949年後詩作中の“紅色”思想変遷」『言語科学』（九州大学言語文化研究院）第50号，pp. 25-38，2015年3月。（涂鴻氏との共著）
- 「魯迅『野草』誕生における“批評家”成仿吾の位置」『野草』（中国文芸研究会）第96号，pp.1-16，2015年8月。（単著）

【その他】

- 「「首届全国徐玉諾文化学術研討会」参加記」『中国文芸研究会会報』第400期記念号，pp.75-77，2015年3月。（研究報告）
- 「従比較文学角度看徐玉諾文学」首届全国徐玉諾文化学術研討会，中国河南省立平頂山学院，2014年11月1日。（口頭発表）
- 「魯迅と日本近代文学——以佐藤春夫及大正時代の雑誌為中心」国際魯迅研究学会第5回学術蘇州論壇，国立蘇州大学（中国），2014年11月21日。（口頭発表）
- 「魯迅文学中的日本現代文学投影」「現代中国文学和日本文学的交流——以与謝野晶子の活動為中心」国立西南民族大学（中国成都市），2014年12月4・5日。（講演）
- 「中国文芸思潮における日本現代女性作家」山東省立青島大学（中国），2014年12月22日。（講演）

- 「“諷刺家” 魯迅の真面目 — 散文詩集『野草』命名論」九州大学比文地球学府・山東大学学国語学院学術研究会, 九州大学, 2015年3月26日。(口頭発表)
- 「從語言学的視角再談魯迅『野草』」第17届韓中教育文化論壇〔首尔 - 北京 - 濟州 - 世界: 通過中国語言文化的溝通〕, 国立濟州大学 (韓国), 2015年6月24日。(口頭発表)
- 「西方文学对魯迅散文詩集『野草』的影響」國際魯迅研究会第6届学術論壇: 杜塞尔多夫論壇國際学術研討会, デュッセルドルフ大学 (ドイツ), 2015年7月2日。(口頭発表)

太田 一昭

【論文】

- 「*REED (Records of Early English Drama)* を読む (1) — “Carting” と『尺には尺を』—」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第65集, pp. 1-15, 2015年3月。

【その他】

- 「シェイクスピア時代の『検閲』とはなにか」日本シェイクスピア学会・日本英文学会, 2015年度シェイクスピア祭, 明治大学, 2015年4月25日。(招待講演)
- 「*REED (Records of Early English Drama)* を読む — Oxford, Cambridge, Devon, Kent, York を中心に —」第21回エリザベス朝研究会, 慶応大学, 2015年9月5日。(口頭発表)
- 「シェイクスピアと collaboration — 書評にかえて」九州シェイクスピア研究会第173回例会, 西南大学, 2015年9月26日。(口頭発表)
- 「『初期英国演劇資料集』(*Records of Early English Drama*) を読む — 特権劇団としての宮内大臣一座・国王一座 —」日本英文学会九州支部第68回大会, 佐賀大学, 2015年10月25日。(招待発表)

倉方 健作

【その他】

- 「ヴェルレーヌ研究の現状: 作品と書簡の刊本および研究動向について」, 日本マラルメ研究会, 第21回総会, 明治学院大学, 2015年5月30日。(口頭発表)
- 「ふらんす90年」(1)~(7), 『ふらんす』(白水社), 2015年4月号-10月号。
- 「ふらんす90年: 過去の誌面より」(1)~(7), 『ふらんす』(白水社), 2015年4月号-10月号。

小谷 耕二

【その他】

- 「ロバート・ベン・ウォレン『天使の群れ』と白人性」第61回九州アメリカ文学会大会, シンポジウム「アメリカ南部と白人性」, 鹿児島大学, 2015年5月10日。(口頭発表)

佐藤 正則

【論文】

- 「倫理をめぐる新カント派と経験批判論者との論争」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第34号, pp. 67-75, 2015年3月。
- 「ロシア宗教哲学者と世界戦争 — ベルジャーエフの場合」『ロシア史研究』(ロシア史研究会) 第96号, pp. 62-70, 2005年6月。

津村 正樹**【著書】**（翻訳）

— 『ホルンの最期』 クリストフ・ハイン著，同学社，全336頁，2015年2月（単著）

中里見 敬**【論文】**

— 「通過日本明治時期《茶花女》的翻譯重估林紓《巴黎茶花女遺事》『中国古代小説戲劇研究』第10輯（蘭州：甘肅人民出版社）pp. 53-63，2014年12月。（単著）

— 「濱一衛の見た一九三〇年代中国芸能：北平・天津」『九州中国学会報』第53号（九州中国学会）pp. 59-73，2015年5月。（単著）

— 「濱一衛の北平留学：周豊一の回想録による新事実」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2014/2015, pp. 1-10，2015年8月。（単著）

【その他】

— 「中国古典小説における風景と文体」中国古典小説研究会関西例会，キャンパスプラザ京都，2015年2月14日。（口頭発表）

— 「濱文庫所蔵唱本目録稿（十四）」『言語科学』第50号（九州大学言語文化研究院言語研究会）pp. 77-94，2015年3月。（目録，共編）

— 「濱一衛1930年代留学中国考論：以其観劇活動及其原始資料考察为中心」『“清末民初赴日中国留学生与中国現代文学”日中学術研討会論文集』（日本郭沫若研究会，日本現代中国学会，九州大学言語文化研究院）pp. 73-82，2015年3月25日。（口頭発表・予稿集）

— 「外務省文化事業部第三種補給生・濱一衛：外務省資料と周豊一の回想録でたどる留学生生活」第282回中国文芸座談会（九州大学中国文学会），九州大学文学部，2015年7月18日。（口頭発表）

— 「濱一衛の北平留学と上演史研究の成立」日本中国学会第67回大会，国学院大学，2015年10月11日（口頭発表）

— 「物理学者と紅茶」，「方家胡同」，「中年の星」，「「打水」「打工」」，「漱石の和製漢語」『日中友好新聞』第2350，2353，2355，2357，2360号付録，福岡県連版・文化版第545，548，550，552，555号（日本中国友好協会福岡県連合会），2015年4月15日，5月25日，6月15日，7月15日，8月15日（中国語教育に関するエッセイ，新聞コラム）

— 「濱先生の北京留学」『日中友好新聞』第2365号（日本中国友好協会）2015年10月15日（中国語教育に関するエッセイ，新聞コラム）

国際共生学講座**阿部 吉雄****【その他】**

— 「資料調査：上海のユダヤ人難民社会による青少年支援」『言語科学』（九州大学大学院言語文化研究院）第50号，pp. 65-76，2015年3月。

稲葉 美由紀**【論文】**

— 稲葉美由紀，女性エンパワーメントセンター福岡，『2014世界の社会福祉年鑑』（宇佐見耕

一・後藤玲子・原島博編) 旬報社, pp. 467-483, 2014年12月.

- 姜信一・稲葉美由紀, 「e- デモクラシーについての理論的な検討 — 電子政府, 電子的な市民参加の観点から —」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第33号, pp. 117-134, 2014年10月.

【その他】

- Round Table on Aging and Social, “Building Community Capacity Through Dementia Care: A Case Study of Omuta City, Japan”, Institute of Development Studies, (Kerala, India), December 17, 2014. (oral presentation)

岡本 太助

【論文】

- 「新大陸膝栗毛 — 『メイスン&ディクソン』における旅の時空間」『アメリカン・ロードの物語学』松本昇・中垣恒太郎・馬場聡編, 金星堂, pp. 380-397, 2015年3月.
- 「授業時間のない科目向け英語ウェブ教材デザインを試み — 九州大学新CALL科目と新教材 —」『言語科学』(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会) 50号, pp. 1-20, 2015年3月. (共著: 鈴木右文・岡本太助)

【その他】

- 「The Scarlet Letter Variations: Suzan-Lori Parks’s “The Red Letter Plays”」日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部, 第57回研究会, 福岡大学, 2014年12月6日. (口頭発表)
- 「The Second Variation: Language, Body and Dystopia in *Fucking A* and *The Handmaid’s Tale*」日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部, 第58回研究会シンポジウム「応答・再演行為としての文学史 — アダプテーションの中のホーソーン」, 福岡大学, 2015年3月28日. (口頭発表)
- 「パフォーマンスと表出的アイデンティティ — Sam Shepard 劇をめぐる理論的考察」日本アメリカ演劇学会, 第5回大会, 大阪ガーデンパレス, 2015年9月12日. (口頭発表)
- 「建物と怪物 — 現代アメリカ小説におけるパフォーマンス」日本英文学会九州支部, 第68回大会シンポジウム「パフォーマンスから読み直すアメリカ文学」, 佐賀大学本庄キャンパス, 2015年10月24日. (口頭発表)

谷口 秀子

【その他】

- 「子どもの本とジェンダー表象 — 近年の絵本を中心に —」, 2015年文化の越境とジェンダー 国際シンポジウム, 上海交通大学 (中華人民共和国), 2015年10月31日. (口頭発表)
- “The Representation of the Child and Childhood in *The Princess Who Loved Insects*”, The 22nd Biennial Congress of the International Research Society for Children’s Literature, The University of Worcester (The United Kingdom), 2015. 8. 10. (口頭発表)
- 「Fanny Campbell とその「娘」たち — *Fanny Campbell, the Female Pirate Captain* と *Girl in Blue* における男装のヒロインを中心に —」, 日本イギリス児童文学会第44回研究大会, 文教大学越谷キャンパス, 2014年11月29日. (口頭発表)
- 「ジェンダー越境の模索 — 『おかあさま』における礼子の「男装」を中心に —」, 『日本語とジェンダー』(日本語ジェンダー学会) vol. XV, pp. 27-28, 2015年8月. (報告・学会)

発表録)

- 「Fanny Campbell とその「娘」たち — *Fanny Campbell, the Female Pirate Captain* と *Girl in Blue* における男装のヒロインを中心に — 」, 『日本イギリス児童文学学会会報』(日本イギリス児童文学学会) 2015年春季号, pp. 13-14, 2015年5月。(報告・学会発表録)

福元 圭太

【論文】

- 「フェヒナーからフロイトへ (2) — グスタフ・テオドル・フェヒナーの系譜 (7)」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第34号, pp. 1-20, 2015年3月。(単著)

【その他】

- 「クリストフ・ハイン著, 津村正樹訳『ホルンの最期』さまざまな層の「抑圧」の風景」『図書新聞』3209号, 2015年6月6日。(書評)
- 「Die Offenbarung des Geheimnisses — Die „Inflationspropheten“ oder die Inflation der Propheten — 」Das Forschungsprojekt der JSPS (Nr. 26284048) zum Thema „Die apokalyptische Kultur als Topos in der deutschen Literatur und Geistesgeschichte. Ist das Ende vom Ende möglich?“, 九州大学箱崎キャンパス, 2015年5月11日。(口頭発表)
- 「ようこそ, カルデラへ」『ラテルネ』(同学社) 114号, Herbst 2015. 特集・鹿児島学会に寄せて. pp. 18-19, 2015年9月16日。(エッセイ)

国際教育

Gabrielle Decamous

【論文】

- 近現代の芸術における芸術と科学の「内的な相互作用」について (About Art and Science's "Intra-actions" in Modern and Contemporary Art). 国際日本学, 第12号, Hosei University Press, Tokyo, pp. 17-35, January 2015.

【その他】

- Reflections on Ethics in Art, Science and Warfare from Post-Fukushima Japan, Goldsmiths, University of London, UK, February 9, 2015, (guest speaker).
- Biopolitics after Fukushima, Rice University, Texas, USA, 29th Annual SLSA (Society for Literature, Science, and the Arts) Conference, November 14, 2015, (oral presentation).

Stephen Laker

【その他】

- Celtic influence on Old English vowels? SELIM (= Spanish Society for Mediaeval English Language and Literature) Annual Conference 27, University of Granada, Palacio de la Madraza, 17-19 Sept. 2015. (oral presentation)
- Historical phonology and language contact. Language Variation and Change Research Forum, Fukuoka University, 30 May 2015. (oral presentation)

Ruben G.A. Pauwels**【論文】**

— 「和英法律翻訳における諸問題」『九州法学会会報』2014号, pp. 19-23, 2014年12月. (和文)

【その他】

— “Once Again on the Reflexes of Tungusic Medial Consonant Clusters in Old Japanese”, Language Variation and Change Network, 2015 Research Forum, Bunkei Center, Fukuoka University, Fukuoka, May 30, 2015. (oral presentation).

退職教授研究業績表

太田一昭 教授

I. 著書

1. 『シェイクスピアの歴史劇』（日本シェイクスピア協会編，研究社），274 pp. 共著．執筆者14名．太田一昭，「『リチャード二世』とエセックス伯の反乱」，pp. 41-56，1994年3月．
2. 『エリザベス朝演劇と検閲』（太田一昭編，英宝社），257 pp. 編著．執筆者8名．太田一昭，「リチャード二世はいかに安全な題材であったか」，pp. 129-63，「エリザベス朝演劇検閲関係年表」，pp. 226-45，1996年2月．（科学研究費研究成果公開促進費による出版）
3. 『シェイクスピアを読み直す』（柴田稔彦編，研究社），218 pp. 共著．執筆者15名．太田一昭，「ジュリエットの年齢」，pp. 3-19，2001年10月．
4. 『初期英国演劇統制資料』（*Documents relating to the Control of Early English Drama*），言語文化叢書（九州大学大学院言語文化研究院），vol. 5, iii + 157 pp. 編集．2003年3月．
5. 『言葉の絆』（卯城祐司，太田一昭，太田聡他編，開拓社），619 pp. 共編著．執筆者45名．太田一昭，「エリザベス朝の劇団と地方巡業」，pp. 413-29，2006年10月．
6. 『新編シェイクスピア案内』（日本シェイクスピア協会編，研究社），234 pp. 共著．執筆者13名．太田一昭（住本規子と共同執筆），「シェイクスピア基本文献ガイド」，pp. 204-19，2007年7月．
7. 『英国ルネサンス演劇統制史——検閲と庇護——』（九州大学出版会），448 pp. 単著．2012年3月．（科学研究費研究成果公開促進費による出版）

II. 学術論文（全て単著）

1. 「マクベスの変貌——野心から虚無へ」，*Cairn*（九州大学大学院英語・英文学研究会），20号，pp. 35-56，1977年7月．
2. 「*Richard III* 1幕2場——RichardのAnne求愛について」，*Cairn*（九州大学大学院英語・英文学研究会），21号，pp. 48-60，1978年7月．
3. 「Macbethの悲劇——Shakespeareの方法」，『筑紫女学園短期大学紀要』，第14号，pp. 79-105，1979年3月．
4. 「Coriolanusの両義性」，『筑紫女学園短期大学紀要』，第15号，pp. 19-34，1980年3月．
5. 「Coriolanusと叙事詩の世界」，『筑紫女学園短期大学紀要』，第17号，pp. 57-70，1982年3月．
6. 「AntonyとCoriolanusのheroismについて」，『筑紫女学園短期大学紀要』，第18号，pp. 19-36，1983年3月．
7. “‘Admiration’ in Elizabethan and Jacobean Tragedy,” 『筑紫女学園短期大学紀要』，第20号，pp. 71-91，1985年3月．

8. 『『ビュシー・ダンボア』における《完璧な人間》の観念』、『筑紫女学園短期大学紀要』, 第21号, pp. 27-42, 1986年3月.
9. 『『尺には尺を』におけるパフォーマンスとサクリフェイス——演技する治者をめぐって』、『筑紫女学園短期大学紀要』, 第22号, pp. 57-71, 1987年3月.
10. 『『冬物語』とイデオロギー』、『産業医科大学雑誌』, 第10巻, pp. 219-25, 1988年6月.
11. 「新歴史主義・文化唯物主義批評」、『産業医科大学雑誌』, 第11巻, pp. 213-24, 1989年6月.
12. 「ジェイムズ朝演劇と検閲」、『産業医科大学雑誌』, 第12巻, pp. 239-49, 1990年6月.
13. “Shakespeare’s Romances and the Court,” *Shakespeare Studies* (The Shakespeare Society of Japan), vol. 27, pp. 1-20, July 1991.
14. 「問題劇としての四つ折本『ヘンリー五世』」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第44集, pp. 73-95, 1994年2月.
15. 「キャリバンとすばらしい『旧世界』」、『言語文化論究』(九州大学言語文化部), 第5号, pp. 1-10, 1994年3月.
16. “The Quarto of *The Second Part of Henry IV* as a Revised Text,” *Studies in English Literature* (The English Literary Society of Japan), English Number, pp. 1-16, March 1996.
17. 『『ヘンリー四世』とオールドカスル/フォールスタフ論争』、『言語文化論究』(九州大学言語文化部), 第8号, pp. 61-76, 1997年3月.
18. 「英国ルネサンス演劇と出版統制」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第48集, pp. 17-43, 1998年2月.
19. 「饗宴局長と後期英国ルネサンス演劇の検閲・認可」、『言語文化論究』(九州大学言語文化部), 第9号, pp. 51-64, 1998年3月.
20. 「英国宗教改革と演劇統制——ヘンリー八世時代」、『言語文化論究』(九州大学言語文化部), 言語情報特別号, pp. 15-29, 1999年10月.
21. 「英国宗教改革と演劇統制——エドワード六世時代からエリザベス朝まで」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第50集, pp. 33-54, 2000年2月.
22. 「エリザベス朝演劇統制令と公演認可——宮廷・枢密院はいかに大衆演劇を保護したか——」、『言語文化論究』(九州大学言語文化部), 第11号, pp. 9-28, 2000年3月.
23. “Elizabethan Players and the Vagabond Acts,” *Shakespeare Studies* (The Shakespeare Society of Japan), vol. 38, pp. 54-76, July 2001.
24. 「英国歴史劇はスチュアート朝において衰退したか」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第52集, pp. 13-34, 2002年2月.
25. 「エリザベス朝の旅役者たち」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第53集, pp. 33-61, 2003年3月.
26. 「英国ルネサンス演劇と宮廷祝典局長——祝典局長と検閲——」、『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院), 第20号, pp. 25-39, 2005年3月.
27. 「英国ルネサンス演劇統制と祝典局長エドモンド・ティルニー——検閲と庇護——」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第55集, pp. 1-16, 2005年3月.
28. 「宮廷祝典局長の利権——パトロネジの経済学」、『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第56集, pp. 51-92, 2006年3月.
29. 「エリザベス朝における戯曲本の『人気』を検証する」、『言語科学』(九州大学言語文化研究院言語研究会), 第43号, pp. 57-76, 2008年3月.

30. 「シェイクスピア劇における愛の経済学」, 『九大英文学』(九州大学大学院英語学・英文学研究会), 第50号, pp. 79-99, 2008年3月.
31. 「『リア王』と2つのテキスト」, 『言語科学』(九州大学言語文化研究院言語研究会) 第44号, 45-64, 2009年3月.
32. 「ロンドン書籍商組合記録と戯曲本の出版」, 『言語科学』(九州大学言語文化研究院言語研究会), 第45号, pp.35-59, 2010年3月.
33. 「シェイクスピアと戯曲本の出版」, 『言語科学』(九州大学言語文化研究院言語研究会), 第46号, pp.95-119, 2011年3月.
34. 1600年8月4日の“staying entry”はいかに解釈すべきか——ロンドン書籍商組合記録再考——(九州大学大学院言語文化研究院言語研究会), 第48号, pp. 7-16, 2013年3月.
35. *REED (Records of Early English Drama)* を読む(1)——“Carting”と『尺には尺を』——, 『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第65集, pp. 1-15, 2015年3月.
36. シェイクスピア時代の「検閲」とはなにか, 『言語文化論究』(九州大学言語文化研究院), pp. 79-91, 第35号, 2015年11月.

Ⅲ. 招待発表・講演

1. 「エリザベス朝の検閲——書評にかえて」, 関西シェイクスピア研究会, 招待発表, 2007年12月16日, 千里阪急ホテル.
2. 「テキストを読む, 歴史を読む」, 招待講演, 2008年1月18日, 同志社大学.
3. 「『リア王』の四つ折本と二つ折本」, 松山大学英語圏文化・文学研究会・研究大会, 招待講演, 2012年12月8日, 松山大学.
4. 「シェイクスピア時代の『検閲』とはなにか」, 2015年度シェイクスピア祭招待講演, 日本シェイクスピア協会・日本英文学会共催, 2015年4月25日, 明治大学.

Ⅳ. その他

〈報告書〉(全て単著)

1. 2000～2002年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 「初期英国演劇関係資料分析による英国ルネサンス演劇史の再構築に関する研究」, 233 pp., 2003年3月.
2. 2003～2005年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 「近代初期英国劇団巡業史研究」, 118 pp., 2006年3月.
3. 2006～2009年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 「エリザベス朝における戯曲の出版に関する研究」, 153 pp., 2010年3月.

〈書評〉(全て単著)

1. Richard Dutton, *Mastering the Revels: The Regulation and Censorship of English Renaissance Drama* (Basingstoke: Macmillan, 1991); Janet Clare, *'Art made tongue-tied by authority': Elizabethan and Jacobean Dramatic Censorship* (Manchester: Manchester UP, 1990). 『英文学研究』(日本英文学会), 第70巻第1号, pp. 71-75, 1993年9月.
2. 高橋康也・大場建治・喜志哲雄・村上淑朗編, 『研究社シェイクスピア辞典』(研究社, 2000). 「九州シェイクスピア研究会会報」, 第7号, p. 4, 2003年10月.
3. Jeffrey Knapp, *Shakespeare's Tribe: Church, Nation, and Theater in Renaissance England* (U of

Chicago P, 2002). *Shakespeare Studies* (The Shakespeare Society of Japan), vol. 44, pp. 29-31, March 2007.

4. Debora Shuger, *Censorship and Cultural Sensibility: The Regulation of Language in Tudor-Stuart England* (Philadelphia: U of Pennsylvania P, 2006). 「関西シェイクスピア研究会会報」, 第29号, p. 7, 2008年4月.
5. 高藤冬武訳, 『バンジャマン・コンスタン日記』(九州大学出版会, 2011年). 『大学出版』(大学出版部協会), 93号, pp. 38-39, 2013年1月.

〈研究資料〉(単著)

1. “Payments to Travelling Players by Provincial Cities and Towns, 1552-1642,” *Linguistic Science* (The Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University), vol. 40, pp. 61-81, March 2005.

〈解説・研究ノート〉(全て単著)

1. 「シェイクスピアにおける女性」, 『筑紫土曜会年報(昭和59年度)』, pp.8-10, 1985年6月.
2. 「英文学における母親と息子」, 『筑紫土曜会年報(昭和61年度)』, pp.1-2, 1987年6月.
3. 「旅役者の世紀」, 「ラーディクス」(九州大学全学共通教育広報), no. 22, pp. 6-7, 1999年9月.
4. 「エリザベス女王一座と旅回り」, *Shakespeare News* (日本シェイクスピア協会), vol. 40, no. 1, p. 29, 2000年7月.
5. 「『警保官ブラート』という邦訳について」, 『英語青年』(研究社), 第148巻第3号, p. 48, 2002年6月.
6. 「『ブラート』(*Blurt, Master-Constable*) 再び」, 『英語青年』(研究社), 第148巻第7号, pp. 64-65, 2002年10月.

〈翻訳〉

1. 『ジャック・ストローの生と死』, 共訳(共訳者佐野隆弥), 『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会), 第47集, pp. 143-78, 1997年2月.
2. ショーン・マッケヴォイ, 『二歩進んだシェイクスピア講義』, 共訳(共訳者古屋靖二, 村里好俊), (大阪教育図書), 374 pp., 2004年9月. 謝辞, 第2章(pp. 39-65), 第7章(pp. 172-210), 第9章(pp. 249-84), 結論(pp. 317-18)の計106頁の翻訳を担当, 付録「シェイクスピア関係年表」(pp. 323-32)を執筆.

〈教科書〉

1. 『『タイム』を読む』, (大津隆広と共編, 英宝社), iv + 59 pp., 2002年1月.

V. 科学研究費補助金(全て研究代表者)

1. 1995年度・一般研究(C), 「エリザベス朝演劇の検閲に関する研究」
2. 1995年度・研究成果公開促進費, 『エリザベス朝演劇と検閲』の出版
3. 1997~98年度・基盤研究(C)(2), 「英国ルネサンス演劇の統制に関する研究」(1998年度は在外研究のため辞退)
4. 2000~2002年度・基盤研究(C)(2), 「初期英国演劇関係資料分析による英国ルネサンス演劇史の再構築に関する研究」

5. 2003～2005年度・基盤研究（C）（2），「近代初期英国劇団地方巡業史研究」
6. 2006～2009年度・基盤研究（C），「エリザベス朝における戯曲の出版に関する研究」
7. 2010～2012年度・基盤研究（C），「英国ルネサンス期における戯曲の著作権に関する研究」
8. 2011年度・研究成果公開促進費，『英国ルネサンス演劇統制史——検閲と庇護——』の出版
9. 2013～2015年度・基盤研究（C），「『初期英国演劇記録』分析による英国劇団史研究」

退職教授研究業績表

津村正樹 教授

I. 著書

(共著)

1. 『私という記号』岡野進編 九州大学出版会刊 1998年2月 「ハンス・アイスラーの『ヨハン・ファウストゥス』を巡る論争」 pp. 241-288

II. 翻訳書

(単著)

1. 『ホルンの最期』クリストフ・ハイン著 同学社 2015年2月 336ページ

(共著)

1. 『ヨーロッパ半島』ハンス・マグヌス・エンツェンスベルガー著 晶文社 1989年10月 pp. 369-448
2. 『東ドイツ短編集 エルベは流れる』同学社 1992年4月20日 『ぼくの友人たち』フリッツ・ルードルフ・フリース作 pp. 111-129
3. 『東ドイツ文学小史』ヴォルフガング・エメリヒ著 鳥影社 1999年2月 監訳 852ページ 訳担当 pp. 7-83および pp. 164-216

III. 学術論文

1. 『ビューヒナーのリアリズム — 小説「レンツ」を素材として —』「希土」第10号 1981年3月 pp. 2-21
2. 『戯曲「ダントンの死」と1834年のビューヒナー』「希土」第11号 1982年3月 pp. 126-154
3. 『「ダントンの死」から「ヴォイツェク」へ — 「自然」概念を中心にして —』「独仏文学研究」(九大独仏文学研究会)第34号 1984年9月 pp. 1-27
4. 『「レオンスとレーナ」への視点』「西日本ドイツ文学」(日本独文学会西日本支部)第1号 1989年11月 pp. 61-73
5. 『「レオンスとレーナ」の解釈の試み』「研究報告」(ワイマル友の会)第15号 1990年5月 pp. 20-33
6. 『「ファウスト」論争の意味するもの』「東ドイツ文学」(東ドイツ文学会)第4号 1999年4月 pp. 32-47
7. 『久留米俘虜収容所における演劇活動(1)』「言語文化論究」第12号 2000年8月 pp. 35-48
8. 『久留米俘虜収容所における演劇活動』久留米教育委員会発行『ドイツ軍兵士と久留米 — 久留米俘虜収容所II — (久留米文化財調査報告書第195集)』2003年3月 pp. 85-90

9. 『「FD」(ファカルティ・ディヴェロップメント)について』「大学教育」(九州大学高等教育総合開発センター) 第12号 2006年3月 pp. 19-26

IV. 翻訳

1. 『レーネ・マトケの決断』ヘルムート・ザコフスキー作 「DDR 文学選集 I」ワイマル友の会九州支部編 1987年4月 pp. 47-73
2. 『インゲ、4月そして5月』ヴォルフガング・コールハーゼ作 「DDR 文学選集 II」ワイマル友の会九州支部編 1988年4月 pp. 119-146
3. 『委託命令—ある革命の回想—』ハイナー・ミュラー作 「DDR 文学選集 IV」ワイマル友の会九州支部編 1990年5月 pp. 186-210
4. 『ヨハン・ファウストゥス』ハンス・アイスラー作 「東ドイツ文学 III」イルムの会—東ドイツ文学会 1997年7月 pp. 5-121
5. 『反ファシズムと罪責』アンドレーアス・ゾルバッハ著 「東ドイツ文学 V」イルムの会—東ドイツ文学会 2001年7月 pp. 141-182
6. 『ハーレキン原理』ルドルフ・ミュンツ著 (『演劇性と芝居』より抜粋訳) うずめ劇場『牡鹿王』上演用パンフレット 2001年
7. 『世界、そして自分自身との対峙』ペーター・ゲスナー作 季刊『演劇人』2003年第13号 (2003年8月10日発行) pp. 38-40.
8. 『クリスタ・ヴォルフ事件 そして 統一ドイツにおける文学論争』トーマス・アンツ著 「東ドイツ文学 VI」イルムの会—東ドイツ文学会 2004年5月 pp. 91-114
9. 『クリスタ・ヴォルフが問題なのではない』トーマス・アンツ編より 「東ドイツ文学 VII」イルムの会—東ドイツ文学会 2005年8月 pp. 121-139
10. 『父より先に息子が死ぬ』トーマス・ブラッシュュ作より 「東ドイツ文学 VII」イルムの会—東ドイツ文学会 2005年8月 pp. 61-78
11. 『クリスタ・ヴォルフが問題なのではない』トーマス・アンツ編より (三) 「東ドイツ文学 VIII」イルムの会—東ドイツ文学会 2009年3月 pp. 118-142
12. 『クリスタ・ヴォルフが問題なのではない』トーマス・アンツ編より (四) 「東ドイツ文学 IX」イルムの会—東ドイツ文学会 2010年9月 pp. 30-46
13. 『クリスタ・ヴォルフが問題なのではない』トーマス・アンツ編より (五) 「東ドイツ文学 X」イルムの会—東ドイツ文学会 2011年10月 pp. 53-101

V. 解説；研究ノート

1. 『東ドイツ文学小史』ヴォルフガング・エメリッヒ著 ノート その1 「DDR 文学選集 V」イルムの会 (旧称ワイマル友の会九州支部) 編 1993年3月 pp. 1-11
2. DaF (ダフ=外国語としてのドイツ語) 紹介 「言語文化論究 No.5」九州大学言語文化部 1994年3月 pp. 157-165
3. 『東ドイツ文学小史』ヴォルフガング・エメリッヒ著 ノート その2 「DDR 文学選集 VI」イルムの会編 1994年4月 pp. 18-59
4. 『東ドイツ文学小史』ヴォルフガング・エメリッヒ著 ノート その3 「東ドイツ文学 I」イルムの会—東ドイツ文学会編 1995年4月 pp. 18-40

VI. 学会発表

1. ビューヒナーの「レンツ」について 日本独文学会京都支部1980年春季研究発表会 1980年6月
2. ビューヒナーの劇形式について 「かいろす」例会研究発表会 1983年12月
3. 東ドイツの印象 「かいろす」例会研究発表会 1986年9月
4. 「レオンスとレーナ」の評価をめぐって 日本独文学会秋季研究発表会 1988年10月
5. 「レオンスとレーナ」の解釈の試み ワイマル友の会秋季研究集会 1989年10月
6. 「大学の外国語教育」に、現在、何ができるか。 第41回九州地区大学一般教育研究協議会 1992年10月
7. 『ファウスト』論争の意味するもの 東ドイツ文学会（イルムの会）総会研究発表 1998年6月

VII. 教科書

1. 1992年度 つむら・ドイツ語教本 九州大学生協
2. 1993年度 つむら・ドイツ語教本 1993年4月 153ページ 城島印刷
3. つむら・ドイツ語教本 1994年4月 152ページ 城島印刷
4. つむら・ドイツ語98 1998年4月 82ページ 樞歌書房
5. つむら・ドイツ語文法2011 2011年3月 83ページ 城島印刷

VIII. その他（辞書）

1. アポロン独和辞典（同学社刊 1994年2月）の編集と執筆への協力（全体にわたる訳語の表現と配列に関する点検）

IX. その他（解説、書評）

1. 書評 中村英雄著『池上草堂襟記』「世界文学」（世界文学会）第74号 1992年2月 pp.57-61
2. 新聞寄稿「東ドイツ文学はかたづいたか？」「西日本新聞・朝刊」1999年6月23日
3. 新聞書評 「トーマス・ブルスィヒ著『太陽通り』（浅井晶子訳）」北海道新聞 2003年1月12日、西日本新聞1月26日に転載